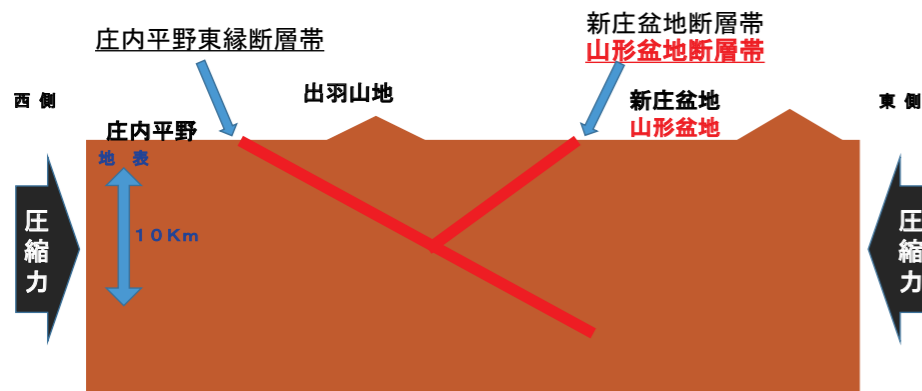
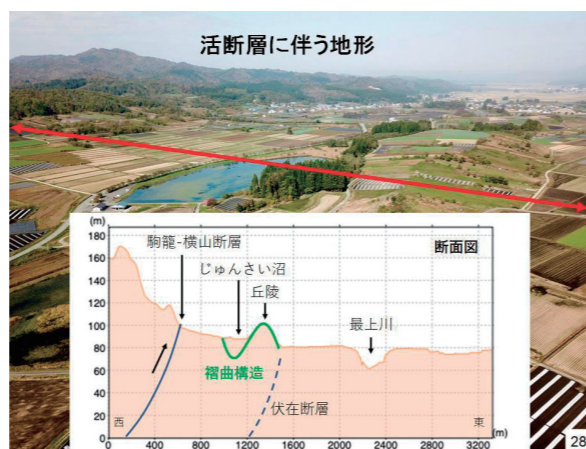
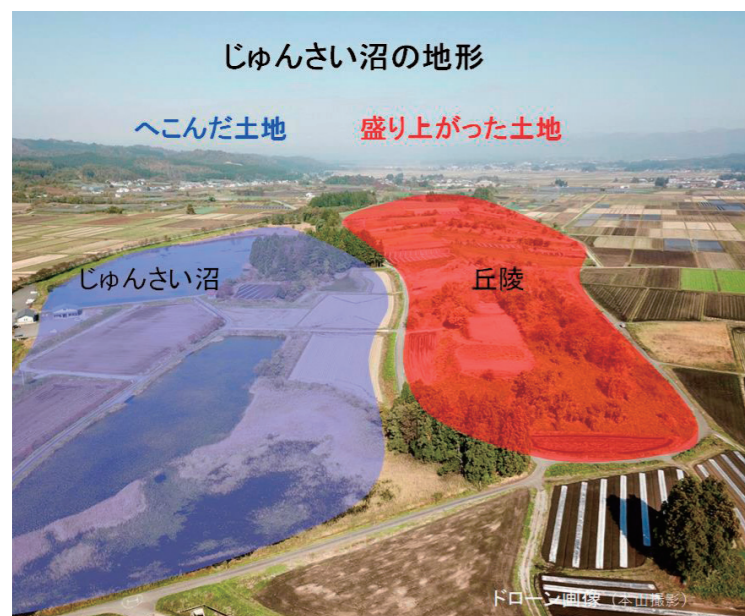


活断層は、どうやってできる？



地球の表面は十数枚の巨大な板状の岩盤（プレート）で覆われており、それぞれが別々の方向に年間数cmの速度で移動しています（プレート運動）。
 海のプレートによって圧縮されている陸のプレート内にたまったひずみが限界に達すると、岩盤の弱い部分で急激なズレが起こります。これが断層による地震で、今後も活動を繰り返すような断層を活断層としています。



プレート運動（活断層）に伴い地形が変化している箇所が大石田町の近くに存在しています。村山市「じゅんさい沼」付近の様子です。地層が波のように曲がっています。（褶曲構造）

将来発生する地震の規模をイメージしてみよう

	断層長	発生間隔	規模 (M)	最大震度	30年発生確率
山形盆地北部	29km	2500~4000年	7.3	震度7	最大8%
山形盆地南部	31km	2500年程度	7.3	震度7	1%
阪神・淡路大震災	40km 野島断層	1700~3500年	7.3	震度7	最大8% (発生直前時点)

※山形盆地断層帯は、阪神・淡路大震災（兵庫県南部地震）と似ている

◎山形盆地断層帯全体が同時に活動する場合には、マグニチュード7.8程度

地震調査研究推進本部地震調査委員会（2007）山形盆地断層帯の評価（一部改正）に、基づく

山形盆地断層帯北部（大石田町から寒河江市）では、マグニチュード7.3規模の地震が発生すると推定されています。これから30年間で地震が発生する確率は、最大8%と発表されており、国内で地震発生確率の高いグループに属しています。山形盆地断層帯全体が同時に活動する場合は、マグニチュード7.8程度の地震になると推定されています。

山形盆地断層帯を正しく学ぶ

～地震から命を守ろう～



【山形県内の「Sランク」活断層】

- 山形盆地断層帯 北部 最大8%
- 庄内平野東縁断層帯 南部 最大6%
- 新庄盆地断層帯 東部 最大5%

- ※1 「Sランク」とは、現在から30年以内に地震が発生する確率が3%以上の断層
- ※2 東北地方の中で、上記の3つの断層帯は、発生確率がトップ3となっています。
- ※3 標記の確率については、今後30年以内の地震発生確率を表しています。

1月1日に発生した能登半島地震は、山形県でも震度4程度の揺れを観測しました。地震などの大災害がいつ、どこで発生するか予測することは困難です。過去に繰り返し地震を起こし、将来も地震を起こすと考えられている断層を「活断層」と言います。
 日本の周辺には約2千もの活断層があり、それ以外にもまだ見つからない活断層が多数あると言われています。死者・行方不明者6,437人などの被害が生じた「平成7年兵庫県南部地震」(阪神・淡路大震災)や、死者273人などの被害が生じた「平成28年熊本地震」も、活断層の動きによって発生した地震です。
 大石田町においては、「平成7年兵庫県南部地震」(阪神・淡路大震災)と地震発生確率などが似ている活断層「山形盆地断層帯」が存在しています。
 地震に対する防災意識を高め、いざ災害が発生した場合に、被害を最小限にするため、令和5年度山形県防災士養成研修講座での資料に基づきお知らせします。